

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
 - 文化・芸術活動を振興する -

評価	B
----	---

取組 4 5	芸術教育の推進	所属名		義務教育課、高校教育課			
達成目標 ※H25は目標年度の状況		H20	H21	H22	H23	H24	H25
音楽や図画工作等が好きという児童生徒の割合		—	—	83.5%	—	調査 予定	80%
群馬県高等学校総合文化祭の各専門部の参加者数		3,224人	3,477人	3,929人	4,182人		増加

【取組結果】

(義務教育課)

- ・移動音楽教室《文化振興課所管事業》

昭和22年度から行われている群馬交響楽団による移動音楽教室は、平成21年度から23年度は第10次基本計画として実施し、小学校で2回、中学校で1回、生の交響楽団の演奏を聴くことができた。

平成24年度からの3年間は、第11次基本計画が実施される。

- ・子どものための優れた舞台芸術体験事業《文部科学省事業》

〈児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業〉

平成22年度の実施：小学校2校、高等学校3校、特別支援学校2校

平成23年度の実施：高等学校2校、特別支援学校2校

(高校教育課)

- ・県高等学校総合文化祭（平成23年度は第17回）

県高等学校文化連盟（事務局：県立前橋女子高等学校）と連携して、本県高校教育における芸術・文化活動の総合的・象徴的なイベント「県高等学校総合文化祭」を10月から11月にかけて実施した。

- ・高校音楽教室

県内公立高等学校等の約3分の1に相当する学校（在学中に1回鑑賞）を対象として毎年実施している。会場は、県内各文化会館等とし、平成22年度は年間24公演を行った。（平成20年度以前は25公演）

結果・成果を示す実績値	H23	実績値の推移（過去3年間）
移動音楽教室（小中学校）	74公演 (315校、46,174人)	H20：81公演(314校、38,798人)、H21：56公演(219校、30,941人)、H22：62公演(320校、43,216人)
高校音楽教室（高校）	24公演、18,522人	H20：25公演、18,472人、H21：24公演、14,088人 H22：24公演、17,043人

【成果】

(義務教育課)

- ・移動音楽教室により、児童生徒の音楽に対する興味・関心が高まるとともに、音楽性の伸長が図られた。また、鑑賞内容と音楽の授業の学習内容とを関連させることにより、音楽の授業の充実が図られた。

(高校教育課)

- ・県高等学校総合文化祭

芸術・文化に対する理解や基盤づくりに資するために、総合的な発表・交流の場を設け、高校教育における芸術・文化活動の一層の活性化を図った。また、高校教育における芸術・文化活動について、広く県民に理解を促すとともに、中学校等における適正な進路指導に役立てることができた。

平成22年度の全国高等学校総合文化祭宮崎大会では、演劇部門で県立前橋南高等学校が県内初の最優秀賞（文部科学大臣賞）を獲得し、優秀校東京公演に出場した。また、小倉百人一首かるた部門で群馬県チームが第4位を得るなどの成果がみられた。

平成23年度の全国高等学校総合文化祭福島大会では、小倉百人一首かるた部門で群馬県チームが準優勝、写真部門個人で優秀賞を得るなどの活躍がみられた。

- ・高校音楽教室《文化振興課事業》

高等学校生徒に交響楽団の演奏を鑑賞する機会を与え、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に役立てることができた。

【課題・対応】

(義務教育課)

- ・平成23年度の移動音楽教室は、台風のため中止となった大泉町を除き、通常通り実施できた。

・移動音楽教室事業のために義務教育課に割り当てられていた予算（運営費補助＋鑑賞費補助）は、平成23年度より文化振興課に移管している。

- ・平成23年度は、各学校の音楽や図画工作・美術の授業の質的向上を目指し、「ぐんまの子ども基礎

・基本習得状況調査」の結果を踏まえ、分析資料や指導資料「はばたく群馬の指導プラン」を作成した。

(高校教育課)

- ・県高等学校総合文化祭

全国高等学校総合文化祭（ぐんま総文）の成果を継承していく必要があり、今後も本文化祭を充実させるとともに、本県高等学校等の芸術・文化活動の一層の活性化・充実を図る。

- ・高校音楽教室《文化振興課事業》

生徒にとってより効果的になるよう、今後も群馬交響楽団とともに演奏形態、曲目等を工夫することが必要である。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
 - 文化・芸術活動を振興する -

評価	A
----	---

取組 4 6	文化・芸術活動の振興			所属名	文化振興課			
	達成目標	H 1 9	H 2 0		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4
	児童生徒が群馬交響楽団の演奏を直接鑑賞できる機会	小学校で2回、中学、高校で各1回鑑賞できる機会を確保						
	はじめての文化体験事業 派遣先数	14か所	12か所	12か所	16か所	20か所		20か所
	県立美術館・博物館が実施する教育普及事業の年間参加者数（5館合計）	79,216人	81,191人	85,536人	101,343人	130,245人		90,000人

【取組結果】

- ・基本計画の記載事業
 - ①伝統文化継承事業（「群馬のふるさと伝統文化」支援事業、「地域の文化」支援事業）
 - ②移動音楽教室、高校音楽教室
 - ③はじめての文化体験事業
 - ④優れた芸術文化に触れる機会を増やす（県立美術館・博物館入館者数）

結果・成果を示す実績値	H 2 3	実績値の推移（過去3年間）
伝統文化継承事業	21件	H21：28件（H21新規事業）、H22：29件
「地域の文化」支援事業	1件	H20：13件（H20新規事業）、H21：12件、H22：12件
文化資産発掘・活用事業	31件	（H23新規事業）
移動音楽教室	74回	H20：81回、H21：56回、H22：62回
高校音楽教室	24回	H20：25回、H21：24回、H22：24回
はじめての文化体験事業	20か所	H20：12か所、H21：12か所、H22：16か所
優れた芸術文化に触れる機会を増やす	505,056人	H20：429,085人、H21：453,063人、H22：472,435人

【成果】

- ①伝統文化継承事業、「地域の文化」支援事業、文化資産発掘・活用事業
 「国民文化祭記念・地域創造基金」を活用し、伝統文化の継承や文化資産を活用した地域づくりにつながる県民の自主的・主体的な文化活動の充実を図った。また、「上毛かるた」を通じて、子どもたちに郷土への誇りと愛着を育んだ。
- ②群馬県文化基本条例の制定
 「文化県群馬」宣言から約30年が経過したことから、本県の文化的風土を再評価し、文化行政の目指すべき方向を定めるために制定した。
- ③移動音楽教室、高校音楽教室
 群馬交響楽団への支援により、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を提供した。
- ④はじめての文化体験事業
 県内アマチュア文化団体の社会貢献促進のため、優れた文化芸術活動を行うアマチュア文化団体を学校等へ派遣し、子ども向けの公演・講話・実技披露やワークショップ等を開催した。
- ⑤優れた芸術文化に触れる機会を増やす
 県立美術館・博物館では、県民に芸術文化等の鑑賞機会を提供するため、魅力的な企画展を開催するとともに、ワークショップや体験学習等の教育普及事業をより一層充実させた。

【課題・対応】

- ・失われつつある地域の連帯感を取り戻していくため、地域の伝統や文化を継承し、地域の絆を深めていくとともに、文化による県民主体の地域づくりを進める必要がある。
- ・長期的視点から、文化活動が自主・自立・持続できる環境づくりが必要である。
- ・群馬交響楽団は、県民のオーケストラとして親しまれており、引き続き支援を行うとともに、経営改善を図るため徹底した経費削減に取り組む必要がある。
- ・県民芸術祭は、県民にとって参加しやすく親しみやすい芸術祭として定着してきており、個性豊かで創造性に富む群馬の文化の振興を図るため、今後とも充実に努める必要がある。
- ・県立美術館・博物館は、県民に優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、利用者の視点に立って運営を見直し、今まで以上に利用者を増加させる取組を行う必要がある。

評価	B
----	---

取組 4 7	文化財の保護と活用				所属名	文化財保護課		
	達成目標 ※H25は目標年度の状況	H19	H20	H21		H22	H23	H24
国及び県指定等の文化財の数		809点	828点	862点	865点	878点		870点
「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査(文科省)	(小6) 49.2% (中3) 23.2%	(小6) 50.4% (中3) 24.5%	(小6) 49.9% (中3) 24.6%	—	—			(小6) 60% (中3) 40%
県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の入館者数		14,367人	12,607人	15,195人	12,224人	13,715人		16,000人

【取組結果】

- ・国及び県指定文化財への新規指定の促進(指定文化財数878点) ※累計
- ・文化財の保存・修理や埋蔵文化財の発掘調査に対する支援(支援事業数51事業)
- ・文化財パトロールの実施(パトロール回数620回)
- ・観音山古墳及び上野国分寺跡の適切な維持管理及び活用
(来場者数:観音山古墳12,150人、上野国分寺跡5,910人)
- ・県埋蔵文化財調査センター発掘情報館での文化財の公開(発掘情報館来場者数13,715人)
- ・埋蔵文化財保護のための試掘調査の実施(試掘件数65件)
- ・県民への最新の文化財や遺跡情報の提供(システムへのアクセス件数21,067件)

結果・成果を示す実績値	H23	実績値の推移(過去3年間)
文化財保存事業等実施数	51事業	H20:41事業、H21:51事業、H22:58事業
文化財パトロール回数	620回	H20:580回、H21:580回、H22:620回
観音山古墳石室見学者数	12,150人	H20:10,425人、H21:10,789人、H22:9,747人
上野国分寺跡ガイダンス施設入館者数	5,910人	H20:4,498人、H21:4,322人、H22:5,801人
試掘件数	65件	H20:54件、H21:63件、H22:48件
文化財情報システムへのアクセス件数	21,067件	H20:18,764件、H21:18,050件、H22:26,366件

【成果】

- ・文化財の保存・修理事業に対する支援や、文化財パトロール・史跡等の公開活用を実施することにより、文化財の適正な保存管理を図ることができた。また、開発事業者との調整により、埋蔵文化財保護対策を図ることができた。

【課題・対応】

- ・文化財の指定等を促進し、毀損・老朽化した文化財を保護・整備・活用して貴重な文化財を次世代へ継承していかなければならない。また、開発事業者との迅速かつ的確な調整を行い、必要に応じて発掘調査を実施し、貴重な埋蔵文化財が失われることのないようにしなければならない。
- ・本県には数多くの歴史的価値の高い文化遺産がある。これを広く活用し県内外に発信する必要がある。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策 8 生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する。

－ 文化・芸術活動を振興する －

評価	B
----	---

取組 4 8	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録	所属名	世界遺産推進課					
達成目標		H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
ユネスコ世界遺産登録								以降 決定

【取組結果】

○世界遺産登録推進

※構成資産の変更

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産については、群馬県世界遺産学術委員会及び国際専門家会議での議論をうけて、次の4箇所に変更することとした。

■富岡製糸場 ■田島弥平旧宅 ■高山社跡 ■荒船風穴

- ・推薦書原案作成
- ・学術委員会開催、国際専門家会議開催
- ・構成資産の国文化財指定の取組
- ・国内外の比較研究調査

○学校キャラバン

- ・世界遺産伝道師が学校に出向き、児童・生徒に絹産業遺産群の歴史と文化、世界遺産の制度などを学んでもらう。

○市町村支援

- ・構成資産の保存修理等補助
(富岡製糸場耐震補強・発掘調査、荒船風穴石垣修理設計 等)
- ・世界遺産関係市町村の調査研究及び保存・活用、広報、周辺整備等の事業への補助
(田島家住宅(田島弥平旧宅)測量・調査報告書・保存管理計画等、高山社跡保存管理計画、荒船風穴保存管理計画 等)
- ・構成資産の周辺に設ける緩衝地帯、景観づくりへの補助

○普及広報・地域連携

- ・伝道師協会等との協働による広報・キャンペーン活動
- ・世界遺産登録運動に取り組む民間団体への補助
- ・富岡製糸場への解説指導員派遣
- ・関係市町村へのアシスタント派遣
- ・各種広報資料作成

結果・成果を示す実績値	H 2 3	実績値の推移（過去3年間）
富岡製糸場来場者数	23.1万人	H20：26.5万人・H21：22.3万人・H22：20.6万人
富岡製糸場世界遺産伝道師協会会員数	243人	H20：222人・H21：253人・H22：248人

【成果】

- 推薦書原案作成
 - ・ユネスコに提出する推薦書の原案を作成し、文化庁に提出した。
- 世界遺産候補としての「富岡製糸場と絹産業遺産群」の認知度向上
 - ・産業遺産専門誌Industrial Patrimony（国際産業遺産保存委員会TICCIHの機関誌）に記事掲載

【課題・対応】

- 平成24年度中のユネスコへの世界遺産登録推薦書提出に向け、推薦書の最終調整を行う。
- 平成25年度の現地調査を経て、平成26年度の世界遺産登録を実現するため、文化庁、関係市町と協議・調整を進め、登録準備に万全を期す。

評価	B
----	---

取組 4 9	生涯スポーツの振興			所属名	スポーツ健康課			
達成目標 ※H25は目標年度の状況	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
週1回以上の運動・スポーツ実施率 (青年・壮年)	青:34.2% 壮:22.8%			青:51.8% 壮:29.5%			50%	
市町村のスポーツ振興基本計画策定率		71%	74.3%	77.1%	91.4%		85%	
総合型地域スポーツクラブが設置されている市町村の割合		34.2%	51.4%	65.7%	71.4%		65%	

【取組結果】

①スポーツ・レクリエーション祭派遣事業

平成23年度は栃木県で開催された。「ぐんまスポーツ情報ネットワーク」のホームページでの広報を行うことにより参加申し込みが増え、148名の選手を派遣することができた。

②広域スポーツセンター事業

この事業は、県内各地域で展開される総合型地域スポーツクラブの設立や運営、スポーツ全般について効果的な支援を行うものである。特に未育成市町村に対して様々な取組を行い、クラブ立ち上げに尽力している。現在5つのクラブが設立支援・準備中。

③マスタープラン研究協議会

「スポーツ県群馬」を推進するため、各地域におけるスポーツ振興方策を検討する機会とするとともに市町村におけるスポーツ振興の基本計画を策定するために開催されている。

④県立学校体育施設開放等の事業

昭和52年度から県立学校の数校ずつを条件整備し、現在では20校で開放事業を実施している。

⑤体育功労者及び社会体育優良団体表彰

生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学大臣表彰）、群馬県体育功労者・社会体育優良団体表彰（教育長表彰）等で活動実績に対して顕彰している。

結果・成果を示す実績値	H23	実績値の推移（過去4年間）
全国・スポーツレクリエーション祭派遣事業	148名	H19青森：148名、H20滋賀：139名 H21宮崎：124名、H22富山：113名
体育功労者及び社会体育優良団体表彰	34名 23団体	H19：38名25団体、H20：34名21団体 H21：37名21団体、H22：36名22団体

【成果】

- ・「生涯スポーツの振興」に関しては、実際に活動しているのは市町村単位である。市町村の地道な活動が県全体としての活動の実績につながっている。
- ・県の事業として、全国・スポーツレクリエーション祭派遣や広域スポーツセンター事業等で市町村にスポーツの種となる援助をし、活動拠点となるクラブづくりの支援をしたり等の活動を実施している。
- ・市町村のスポーツ振興計画を策定するための気運を盛り上げるように協議会も開催している。
- ・成果として、市町村のスポーツ振興基本計画策定率が上がり、総合型地域スポーツクラブの設置市町村の割合も上がっている。
- ・平成23年度は群馬県教育振興基本計画のスポーツにおける部門計画となる「ぐんまスポーツプラン2011」を施行し、今後10年間の本県の体育・スポーツ振興の方向性を示した。

【課題・対応】

- ・地域スポーツ振興を図り、県民の運動・スポーツ実施率を向上させるには、身近なスポーツ環境づくりが不可欠である。平成24年度は県立学校体育施設開放事業の充実を目指し、内容を検討していく。
- ・今後、予想される大規模大会開催に備えて、スポーツ施設を整備するために、拠点スポーツ施設整備検討委員会やスポーツ推進審議会を開催し、計画的にスポーツ環境の整備を行っていく。

評価	B
----	---

取組 50	競技スポーツの振興				所属名	スポーツ健康課		
達成目標 ※H25は目標年度の状況	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
国体男女総合成績（天皇杯順位）	21位	22位	17位	20位	21位		10位台	
群馬県スポーツ賞顕彰の受賞者数	104人	160人 2団体	144人 1団体	123人	106人		150人	
群馬県競技団体の登録人数	149千人	147千人	148千人	150千人	149千人		149千人	

【取組結果】

- ① 競技力向上対策支援事業
 国民体育大会に参加する40競技団体、2学校体育団体が実施する競技力向上対策事業に対する支援や競技力向上フィードバック対策及び総合一貫強化対策事業に対する支援を実施した。その結果、第66回国民体育大会では、4競技で8種目が優勝し、総合得点961点で21位の成績を獲得した。国民体育大会本大会の成績は、前年と同様の結果を得た。また、ジュニアの発掘・育成を目的とした「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」事業をスタートした。
- ② 群馬県スポーツ賞顕彰等推進
 世界大会や全国大会で優秀な成績を納めた競技者や指導者に対し、その栄誉をたたえ、スポーツの振興と郷土の意識の高揚に資することを目的に、群馬県スポーツ賞顕彰規定に基づき106名を表彰した。
- ③ 国民体育大会参加推進
 国民体育大会の選手・監督が群馬県代表としての自覚と誇りを持って大会に参加し、子供達の憧れとなる活躍ができるよう支援した。
- ④ 各種競技大会の開催・派遣
 各種大会の本県開催の支援と有力選手の海外派遣の支援を行った。
- ⑤ スポーツイベント誘致
 県民がレベルの高いスポーツに触れ、スポーツに関する関心を高められようスポーツのビッグイベント（1/1ニューイヤー駅伝、5/10プロ野球巨人対横浜戦：巨人公式戦56年ぶり）を開催・誘致を図った。

結果・成果を示す実績値	H23	実績値の推移（過去3年間）
国体男女総合成績（得点）	961点	H20:1,009点 H21:1,175.5点 H22:1,014点
ぐんま県民マラソン実参加者数	10,873人	H20:10,943人 H21:12,271人 H22:11,872人

※県民マラソン参加者については、平成22年度から交通安全の面から警察の指示があり、参加者数制限を実施。

【成果】

- 競技レベル向上システムの確立
 競技力向上対策支援事業において、全国で活躍するスポーツ選手が育つ環境づくりを進めるため、一貫指導システムや指導者育成プランを実施した。国民体育大会の成績では目標数値に至らなかったが、事業の成果はあがりつつあると考えられる。「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」では、4競技団体が小学4・5年生を対象として育成に取り組み、7競技団体でジュニア指導者の指導者育成研修を行った。
- 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツの確立
 県民のスポーツへの関心は高く、群馬県競技団体の登録人数は目標値を達成できた。ぐんま県民マラソンでは参加者の定着が図られ、参加者の申込み締め切り日が早まるなど、県民ボランティアとともに大会の盛り上がりが見られた。

【課題・対応】

スポーツに親しむ県民の増加と競技人口の底辺拡大及び競技力向上のため、県民に夢や感動を与えるスポーツイベントの誘致と各競技団体の強化事業及びジュニアのタレント発掘と育成をより積極的に推進していく必要がある。